

# 過去問ライブラリー 判断推理

対応関係 2009 対応関係

## 問題

A～Eの5人で旅行に行った。旅行先には六つの観光名所があり、各人の意見（訪問に賛成又は反対のいずれか）をもとに、多数決によって、どの名所を訪ねるかを決めた。次のことが分かっているとき、確実にいえるのはどれか。

- どの二つの名所についても、5人の意見の賛否の組合せが同一になった所はなかった。
  - AとBは、すべての名所について、意見が異なっていた。
  - AとCが同じ意見を出した名所については、Dも同じ意見であった。
  - 六つの名所のうち、CとDがともに反対した所はなかった。
  - Dは、すべての名所について、自分の意見と多数決の結果が一致していた。
- 
1. 多数決の結果、5か所の名所に行くことになった。
  2. いずれか4人が賛成した名所は1か所もなかった。
  3. Aの意見と多数決の結果が一致した名所は3か所だった。
  4. BとCがともに反対した名所は2か所だった。
  5. Cが賛成した名所は3か所だった。

## 解説

5つの条件を上から「1番目」～「5番目」とし、条件を満たす賛否（○，×）の組合せを、次のように場合分けして考えます。

### ● Aが賛成の場合

2番目の条件より、Bは反対に決まります。

Cが賛成の場合は、3番目の条件より、Dも賛成で、3人が賛成なので多数決の結果は賛成に決まり、5番目の条件を満たします。よって、Eは賛成でも反対でも構いませんから、次表①、②の2ケースが考えられます。

また、Cが反対の場合は、4番目の条件より、Dは賛成で、5番目の条件より、Eは賛成に決まります（次表③）。

### ● Aが反対の場合

Bは賛成に決まります。さらに、Cが反対の場合は、3番目の条件より、Dも反対になりますが、これでは4番目の条件に反しますので、Cも賛成に決まります。

ここで、Dが賛成の場合は、多数決の結果は賛成に決まりますので、5番目の条件を満たし、Eは賛成でも反対でも構いません（次表④、⑤）。

また、Dが反対の場合は、5番目の条件より、Eも反対に決まります（次表⑥）。

	①	②	③	④	⑤	⑥
A	○	○	○	×	×	×
B	×	×	×	○	○	○
C	○	○	×	○	○	○
D	○	○	○	○	○	×
E	○	×	○	○	×	×

以上より、表の①～⑥の組合せが考えられ、1番目の条件より、各名所の賛否の組合せはこれらが1つずつとわかります。

よって、①～⑤の5か所へ行くことになり、正解は肢1です。